



# 2018年2月期 第3四半期 決算補足資料

2017年12月28日  
株式会社アダストリア

## I. 営業報告

・ ブランドトピックス	3
・ WEB事業	6
・ システム構築進捗状況	7

## II. 2018年2月期 第3四半期業績

・ 連結損益計算書	9
・ アダストリア単体	11
・ 海外事業	12
・ 連結貸借対照表	13
・ 店舗数	14



# I . 營業報告

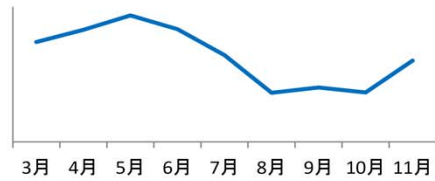
# ブランドトピックス

## GLOBAL WORK

売上高(累計) : 288億円 (前年同期比101.5%)

- 3Q売上は回復基調
- 国内最大となるキャナルシティ博多店が12月オープン
  - ・約400坪・2フロアの店内にフルラインアップで展開
  - ・西日本初の「GLOBAL WORK CAFE」も併設

既存店売上高前年比  
(3ヶ月移動平均)



ADASTRIA Copyright © 2017 Adastria Co., Ltd. All rights reserved.

キャナルシティ博多

3

まず、営業の状況についてご報告させていただきます。

グローバルワークは盛夏・晩夏商品の不振で第2四半期に売上が減速しましたが、秋冬物に切り替わっていく中で売上は回復基調にあります。

12月にはキャナルシティ博多に国内最大となる店舗をオープンしました。約400坪・2フロアの店内には通常アイテムはもちろん、スポーツライン「ACTIVE」、リラックスウェア「ROOM」、カジュアルオフィスウェア「DRESS」など一部店舗で取り扱うスペシャルラインを加え、フルラインアップで展開しております。また西日本初となる「GLOBAL WORK CAFE」も併設しておりますので博多にお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

# ブランドトピックス

## niko and ...

売上高(累計) : 208億円 (前年同期比116.5%)

### ■ メンズウェア売上が好調

- ・売上高前年比150%以上
- ・人員増強により商品企画力アップ
- ・ウィメンズとの素材共通化による商品のバリューアップ
- ・販促強化により認知率上昇



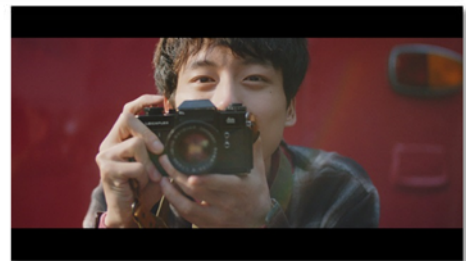
### ■ コラボアイテムの展開

- ・人気キャラクター「ミニオン」  
とのコラボ企画により客数が大幅増加
- ・new balanceとのコラボ商品も話題に



### ■ 10周年プロモーションムービー

- ・「であうにあう」をキャッチコピーとした  
ムービーを全国の店頭で放送、9月にTVCMもオンエア



ADASTRIA Copyright © 2017 Adastia Co., Ltd. All rights reserved.

4

ニコアンドは引き続き好調な売上が続き、売上高は第3四半期までの累計で前年同期比116.5%となる208億円となりました。

もともとはウィメンズアパレルと雑貨でスタートしたブランドで、数年前からメンズを追加したわけですが、足許ではメンズウェアが特に好調に推移しています。人員増強による商品企画力の向上、ウィメンズとの素材共通化によるコストダウン、10周年記念のプロモーションムービーの中で男性タレントが着用していたアウターが注目されてメンズウェアの認知度が上昇したことなどが背景となっています。

また、他社とのコラボレーションアイテムも積極的に開発しています。人気キャラクター「ミニオン」とのカプセルトイなどのコラボ商品は大人気で客数増加に大きく貢献しましたし、ニューバランスとのコラボ商品発売を記念して開催したウォーキング・ランニングイベントは大盛況でした。

# ブランドトピックス



売上高(累計) : 180億円 (前年同期比110.2%)

- WEB限定サイズ売上が好調
- クリスマス関連雑貨売上前年比120%超



## repipi armario

- 2010年ローンチした女子中学生向けブランド
  - ・ ローティーン向けファッション雑誌「nicola」の好きなファッションブランド部門で8年連続1位
- 既存店売上高前年比110%以上で好調に推移
  - ・ オเคーション対応や価格訴求を狙った商品力の強化



ADASTRIA Copyright © 2017 Adastia Co., Ltd. All rights reserved.

5

スタディオクリップも順調に成長を続けており、売上高は前年同期比110.2%となる180億円となりました。

店頭では買いにくい少しゆったりめのサイズをWEBだけで展開したり、狭いお部屋でもクリスマス気分楽しんでいただけるよう、ツリーを少しスリムにしたり、ちょっとした気遣いがお客様に喜ばれております。

レピピアルマリオは女子中学生向けのブランドで、ローティーン向けファッション雑誌「nicola」の“好きなファッションブランド部門”で8年連続1位を獲得しています。今期はオケーション対応や価格訴求を狙った商品力を強化したことで、より一層売上が好調に推移しました。

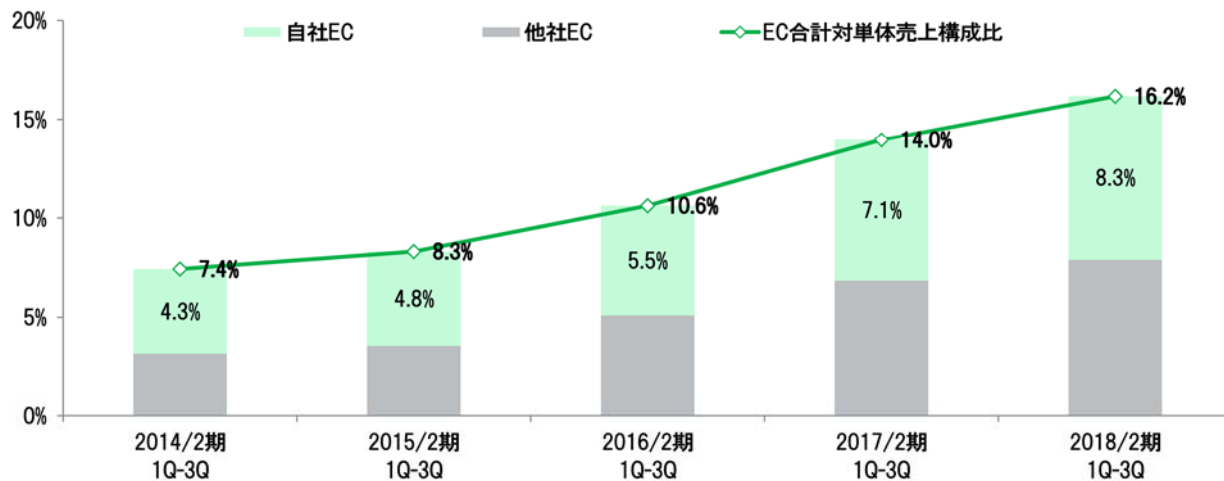
# WEB事業

**売上高(累計) : 238億円 (前年同期比119.9%)**

WEB構成比 : 16.2% (うち自社EC約8.3%)

自社EC[.st]会員数 : 約660万人(前期末比+100万人)

リアル店舗と連動したポイント還元施策が奏功



\* : 2014/2期はグループ化前のトリニティアーツ実績を合算済



\* : 自社EC売上の計上ベースを変更したことにより対国内売上高構成比を過去に遡って変更

WEB事業売上高は238億円で、前年同期比119.9%と引き続き2割前後の成長が続いています。

国内売上高に占める比率は16.2%、その中でも自社ECサイト[.st]を経由した売上が約半分の8.3%を占めている点が当社の強みではないかと思っております。

この秋からは、店頭で[.st]会員に対してポイントアップキャンペーンを行うなど、リアル店舗と連動したポイント還元施策が奏功し、新規会員獲得が進みました。また、品揃えや見せ方の工夫し、短期間のうちに検証作業を繰り返すことによって、コンバージョンレートも改善しています。

# システム構築進捗

	実現すること	スケジュール
<b>基幹システム</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ システムの安定化</li><li>■ 旧ポイントと旧トリニティアーツのシステム統合</li><li>■ 工場などの外部とのデータ連携</li><li>■ 在庫・ポイントのリアルタイム化</li><li>■ グローバルベースでの安全性の確保</li><li>■ 新規事業への対応</li></ul>	2019年2月期より 各機能順次 切り替え  
<b>グローバルEC</b>	<p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 売上増加への対応</li><li>■ 他社モール展開・端末の多様化に対応</li><li>■ オムニチャネルサービスへの基盤整備</li></ul> <p>海外</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 台湾自社ECオープン</li></ul>	<p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 2019年2月期 下半期ローンチ 予定</li></ul> <p>海外</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 2018年春に導入 予定（台湾）</li></ul> 

今年度に入ってシステム投資を積極化しておりますので、概要をご説明させていただきます。

まず、基幹システムの入れ替えは、企業統合でつぎはぎになっていたシステムの安定化、外部の工場などとのデータ連携の円滑化、オムニチャネル化に向けた在庫・ポイントのリアルタイム化、新規事業への対応などが目的となっています。新年度よりPOSレジの入れ替えも含めて順次各機能を入れ替えていく予定です。

また、既存のECシステムでは今後の売上成長や海外展開、新サービスに対応できなくなっているため、新ECシステムの開発も進めています。こちらも来下期ローンチ予定です。



---

## II. 2018年2月期 第3四半期業績

# 連結損益計算書

(百万円)

(連結)	2017/2期 第3四半期				2018/2期 第3四半期					
	9ヶ月累計		3ヶ月		9ヶ月累計			3ヶ月		
		構成比		構成比		構成比	前年同期比		構成比	前年同期比
売上高	148,925	100.0%	51,198	100.0%	163,269	100.0%	109.6%	55,476	100.0%	108.4%
アダストリア単体	142,369	95.6%	48,954	95.6%	147,297	90.2%	103.5%	49,972	90.1%	102.1%
海外 *1 *2	7,871	5.3%	2,614	5.1%	10,190	6.2%	129.5%	3,959	7.1%	151.5%
アリア *3	-	-	-	-	6,961	4.3%	-	1,903	3.4%	-
売上総利益	87,456	58.7%	30,910	60.4%	92,176	56.5%	105.4%	32,076	57.8%	103.8%
販管費	73,823	49.6%	25,332	49.5%	85,286	52.2%	115.5%	29,219	52.7%	115.3%
広告宣伝費	4,889	3.3%	1,918	3.7%	6,037	3.7%	123.5%	2,576	4.6%	134.3%
人件費	25,149	16.9%	8,368	16.3%	28,116	17.2%	111.8%	9,470	17.1%	113.2%
設備費	29,410	19.7%	10,086	19.7%	33,577	20.6%	114.2%	11,255	20.3%	111.6%
のれん償却費	1,638	1.1%	546	1.1%	2,008	1.2%	122.6%	706	1.3%	129.4%
その他	12,736	8.6%	4,412	8.6%	15,546	9.5%	122.1%	5,210	9.4%	118.1%
営業利益	13,632	9.2%	5,578	10.9%	6,890	4.2%	50.5%	2,856	5.1%	51.2%
アダストリア単体 (のれん償却前)	14,911	-	5,990	-	9,267	-	62.2%	3,821	-	63.8%
海外 (のれん償却前) *1 *2	▲ 394	-	▲ 59	-	▲ 1,127	-	-	▲ 262	-	-
アリア (のれん償却前) *3	-	-	-	-	18	-	-	▲ 166	-	-
アダストリア・ロジスティクス	497	-	135	-	558	-	-	157	-	116.2%
経常利益	13,800	9.3%	5,749	11.2%	7,238	4.4%	52.4%	3,094	5.6%	53.8%
純利益	11,172	7.5%	6,324	12.4%	6,594	4.0%	59.0%	1,557	2.8%	24.6%
EBITDA	19,511	13.1%	7,607	14.9%	13,849	8.5%	71.0%	5,248	9.5%	69.0%
減価償却費	4,240	2.8%	1,483	2.9%	4,951	3.0%	116.8%	1,684	3.0%	113.6%
のれん償却費	1,638	1.1%	546	1.1%	2,008	1.2%	122.6%	706	1.3%	129.4%

\*1: 海外法人(香港・台湾・中国・韓国・シンガポール・米国)の単純合算

\*2: 米国 (Adastria USA, Inc.)は2018/2期2Qより実質連結

\*3: 2018/2期1Qより実質連結

**A D A S T R I A**

Copyright © 2017 Adastria Co., Ltd. All rights reserved.

# 連結損益計算書（第3四半期3ヶ月）

- **売上高：554億円**（前年同期比108.4%）  
国内既存店売上高前年比99.2%  
ニコアンド・レピピアルマリオ・ベイフローなどが牽引
- **売上総利益率：57.8%**（前年同期比▲2.6p）  
単体・海外子会社における値下げ率の上昇  
原価率の上昇
- **販管費率：52.7%**（前年同期比+3.2p）
  - 広告宣伝費：4.6%（同 +0.9p）主力ブランドの広告宣伝の強化
  - 人件費：17.1%（同 +0.8p）店舗人件費率の上昇・子会社の人件費率の上昇
  - 設備費：20.3%（同 +0.6p）子会社の設備費率の上昇
  - その他：9.4%（同 +0.8p）小口配送費・システム経費等の増加
- **営業利益：28億円**（前年同期比51.2%）  
営業利益率 5.1%（前年同期比▲5.8p）、EBITDAマージン9.5%（同▲5.4p）
- **純利益：15億円**（前年同期比24.6%）  
前第3四半期において有価証券売却益37億円を計上

ここでは主に第3四半期3か月の業績についてご説明します。

当第3四半期の連結売上高は554億円で、前年同期比108.4%となりました。  
ニコアンド、レピピアルマリオ、ベイフローなどが牽引役となって国内既存店売上高前年比が99.2%となったことに加え、アリシア・米国ベルベット事業の売上が加わっています。

売上総利益率は、57.8%と前年同期比▲2.6P低下しました。  
単体・海外子会社における値下げ率の上昇に加え、原価率の上昇も要因となっています。

販管費率は、52.7%と前年同期比+3.2P上昇しました。  
内訳を申し上げますと、

広告宣伝費率はニコアンドなど基幹ブランドを中心に広告宣伝を積極化させた結果、+0.9P上昇、  
人件費率は単体の店舗売上が弱含んだことによる店舗人件費率の上昇に、  
子会社要因も加わって+0.8P上昇、  
設備費率はオフィス移転による費用増加約2億円に、子会社要因も加わって0.6P上昇、  
その他販管費率はWEBでお買い上げいただいたお客様のご自宅に届ける小口配送費や、システム構築に係る費用の増加によって、0.8P上昇となっています。

この結果、営業利益は前年同期比51.2%となる28億円となりました。  
営業利益率は5.1%、EBITDAマージンは9.5%です。

前年の第3四半期に特別利益として、投資有価証券売却益37億円を計上しているため、純利益は前年同期比24.6%の15億円となりました。

# アダストリア単体

(百万円)

	2017/2期 第3四半期		2018/2期 第3四半期			
	9ヶ月累計	3ヶ月	9ヶ月累計		3ヶ月	
				前年同期比		前年同期比
売上高	142,369	48,954	147,297	103.5%	49,972	102.1%
(既存店前年比)	102.5%	103.0%	99.7%	-	99.2%	-
グローバルワーク *1	28,387	10,023	28,806	101.5%	9,978	99.5%
ニコアンド	17,871	6,242	20,820	116.5%	7,211	115.5%
スタディオクリップ	16,356	5,345	18,024	110.2%	5,620	105.1%
ローリーズファーム *1	18,767	6,785	17,030	90.7%	5,879	86.7%
レブシム	11,716	3,975	11,413	97.4%	3,969	99.9%
売上総利益	82,644	29,366	82,673	100.0%	28,913	98.5%
売上総利益率	58.0%	60.0%	56.1%	▲ 1.9p	57.9%	▲ 2.1p
販管費 (のれん償却費除き)	67,733	23,376	73,405	108.4%	25,091	107.3%
販管費率	47.6%	47.8%	49.8%	+2.3p	50.2%	+2.5p
営業利益 (のれん償却費除き)	14,911	5,990	9,267	62.2%	3,821	63.8%
営業利益率	10.5%	12.2%	6.3%	▲ 4.2p	7.6%	▲ 4.6p
出店	72	34	98		27	
退店	26	5	24		8	
改装	61	20	59		29	
期末店舗数	1,266	1,266	1,317		1,317	

\*1：2018/2期3Qよりアウトレット12店舗をアウトレット営業部より移管したため、売上高を過去に遡って変更

こちらはアダストリア単体の損益計算書ですが、先程の連結業績の説明とほぼ重なっておりますので、説明は割愛させていただきます。

出退店につきましては、第3四半期の3ヶ月間で27店舗を出店し、8店舗を退店しました。ブランドごとの内訳につきましては、14ページに記載しておりますのでご確認下さい。

# 海外事業

(百万円)

(海外現法単純合算)	2017/2期 第3四半期		2018/2期 第3四半期					
	9ヶ月累計	3ヶ月	9ヶ月累計			3ヶ月		
			前年同期比 (円ベース)	前年同期比 (現地通貨 ベース)	前年同期比 (円ベース)	前年同期比 (現地通貨 ベース)		
売上高	7,871	2,614	10,190	129.5%	126.3%	3,959	151.5%	143.1%
香港	4,842	1,592	4,519	93.3%	90.9%	1,536	96.5%	90.0%
中国	1,344	454	1,410	104.9%	105.7%	515	113.4%	105.4%
韓国	581	218	714	122.8%	116.6%	282	129.3%	120.7%
台湾	1,102	349	1,207	109.5%	99.5%	400	114.8%	100.7%
シンガポール	-	-	-	-	-	-	-	-
米国	-	-	2,338	-	-	1,224	-	-
営業利益 (のれん償却前)	▲ 394	▲ 59	▲ 1,127	-	-	▲ 262	-	-
香港	▲ 194	▲ 41	▲ 517	-	-	▲ 174	-	-
中国	▲ 147	▲ 6	▲ 224	-	-	▲ 17	-	-
韓国	▲ 177	▲ 34	▲ 133	-	-	▲ 39	-	-
台湾	120	23	84	69.9%	63.5%	14	62.2%	52.8%
シンガポール	4	-	-	-	-	-	-	-
米国 (のれん償却前)	-	-	▲ 337	-	-	▲ 45	-	-

海外事業についてご説明いたします。

海外の第3四半期は7-9月の3ヶ月となりますが、円ベースの売上高は前年同期比151.5%となる39億円、営業利益は▲2億円の損失となりました。

香港は上期に引き続いて苦戦が続いております。

台湾はニコアンド台北のオープン費用等で減益となっておりますが、売上は大変好調に推移しています。

米国ベルベット事業は第2四半期に比べると改善しました。

# 連結貸借対照表

(百万円)

(連結)	2016年11月末		2017年2月末		2017年11月末			
		構成比		構成比		構成比	2016年11月末比 増減額	2017年2月末比 増減額
流動資産	48,666	53.3%	48,178	53.3%	53,553	53.9%	+4,887	+5,374
現預金	10,660	11.7%	20,734	22.9%	11,580	11.7%	+919	▲9,153
棚卸資産	20,743	22.7%	16,351	18.1%	22,998	23.2%	+2,255	+6,646
固定資産	42,611	46.7%	42,210	46.7%	45,758	46.1%	+3,147	+3,548
有形固定資産	11,482	12.6%	10,444	11.6%	12,500	12.6%	+1,018	+2,055
のれん	3,855	4.2%	3,309	3.7%	5,707	5.7%	+1,852	+2,398
投資その他資産	25,454	27.9%	26,213	29.0%	23,469	23.6%	▲1,984	▲2,743
総資産	91,277	100.0%	90,389	100.0%	99,312	100.0%	+8,034	+8,923
負債	35,843	39.3%	34,353	38.0%	42,701	43.0%	+6,858	+8,347
有利子負債	1,564	1.7%	2,027	2.2%	2,862	2.9%	+1,298	+835
純資産	55,434	60.7%	56,035	62.0%	56,610	57.0%	+1,176	+575
自己株式	▲4,643	▲5.1%	▲4,645	▲5.1%	▲4,650	▲4.7%	▲7	▲4

- **棚卸資産**：新規連結効果もあって連結ベースでは前年同期末比110.9%と増加しているが、単体では同103.1%と増収率と同程度の伸び
- **固定資産**：第1四半期に（株）アリシア（10億円）・Velvet, LLC（仮33億円）ののれんを計上  
保有株式の売却により投資有価証券が減少
- **純資産**：純資産比率は57.0%と健全な水準を維持

連結貸借対照表です。

2016年11月末、2017年2月末に比べますと、アリシア社・米国Velvet社が新たに連結されているため、棚卸資産やのれん代の増加が目立っていますが、単体の棚卸資産は前年同月末比103.1%と売上と同程度の伸びとなっています。

また、第1四半期に投資有価証券を売却したため、投資その他資産が減少しました。

純資産は566億円で、純資産比率は57.0%と引き続き安定的な水準を維持しております。

# 店舗数

	2017/2期	2018/2期 3Q累計実績				期末 店舗数
	期末 店舗数	増加	出店等	変更	退店	
グローバルワーク	192	-	11	12	▲ 2	213
ニョアンド	129	-	9	0	▲ 2	136
スタディオクリップ	182	-	15	0	▲ 1	196
ローリーズファーム	152	-	7	0	▲ 2	157
レプシム	134	-	11	0	▲ 3	142
ジーナシス	80	-	4	0	▲ 2	82
レイジブルー	58	-	3	1	▲ 1	61
ベイフロア	32	-	7	0	0	39
その他	284	-	31	▲ 13	▲ 11	291
アダストリア合計	1,243	-	98	0	▲ 24	1,317
(うちWEBストア)	(39)	-	(6)	0	0	(45)
アリア合計	-	113	5	0	▲ 12	106
(うちWEBストア)	-	(6)	(0)	(0)	(0)	(6)
国内合計	1,243	113	103	0	▲ 36	1,423
(うちWEBストア)	(39)	(6)	(6)	(0)	(0)	(51)
香港	25	-	0	0	▲ 1	24
中国 *1	45	-	12	0	▲ 11	46
台湾	29	-	0	0	0	29
韓国	9	-	2	0	0	11
米国	-	9	1	0	0	10
海外合計	108	9	15	0	▲ 12	120
(うちWEBストア)	(8)	(1)	(0)	(0)	(0)	(9)
<b>連結合計</b>	<b>1,351</b>	<b>122</b>	<b>118</b>	<b>0</b>	<b>▲ 48</b>	<b>1,543</b>

\*1：代理商（2018/2期3Q末20店舗）を含む

以上ご説明しましたように、

第2・3四半期と厳しい業績が続いておりますので、通期公表予想の達成は大変難しい状況となっております。現段階では通期公表予想を修正する段階にはないと判断しておりますが、該当する事象が発生した際には速やかに公表させていただきます。

---

## 業績予想の適切な利用に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## その他留意事項

資料内の数値は百万円未満を切り捨て表示し、百分率は元データから算出しております。



**A D A S T R I A**  
**—**